令和４年度 第３学期終業式 式辞

令和５．３．18

皆さんは今年度を振り返り、どのように自己評価しますか。１年間で目標を達成し、さらに高いレベルに再設定して、自らの可能性を信じてさらに挑戦している人、途中で目標を修正し直して努力している人、どこかでうまく歯車が回らなくて意欲が下がってしまった人など、それぞれ振り返り、新しい学年を迎えるにあたり、この休業中を改めて自分の将来や目標を考えて見直すいい機会にして、確実に振り返る時間、前に向かって考える時間を作ってほしいと思います。

私自身、今年度の本校を振り返って思うことをいくつかの紹介します。

学習面については、教室では、一人一台端末の整備により一人一人が机の上にタブレットを準備する風景が普通の学習環境になりました。教科の特色にもよりますが、今後は、この勉強道具を効果的に使いこなして、より深い学びにつないでほしいと思います。

部活動等においては、卒業した３年生とともに活動し、多数の生徒の皆さんが全国大会に出場し、後輩である皆さんも貴重な経験を共有できたと思います。ボランティア活動では、「城北高女」の生徒22名を慰霊する「殉職女子学徒追憶之碑」を、90歳を超える大先輩の方々とともに清掃活動をすることができました。そして、３年生から、２年生が活動の中心になって以降も、運動部も文化部も高いレベルで活躍し、様々な場面で松山北高校の名前が、多く新聞記事やテレビなどで取り上げられました。今後も幅広い分野で充実した活動を楽しみに、また、期待もしています。

次に、卒業式でも紹介しましたが、卒業生の皆さんが実践していた心のこもった挨拶のことを話します。２月のマラソン大会に大会の補助員として参加していた３年生が、座って休んでいたにもかかわらず、私が近くを通ると全員自然に起立し、挨拶をしてくれる場面がありました。本校で成長した姿を感じる一場面でした。実は、このような景色は、２年生が１年生の夏にバドミントン部がしてくれた挨拶として紹介した光景です。当時は、立ち止まって挨拶してくれていたのは、ハンドボール部の生徒が多かったと記憶していますが、今では、他の部員の皆さんからも同じように挨拶をしてもらっています。これからも多くの皆さんが、日ごろから主体的に挨拶ができるようになる姿を見守りたいと思います。心のこもった挨拶によって、挨拶された相手の方は、きっと清々しい気持ちになります。その姿を見た皆さんも同じく清々しい気持ちになれるはずです。このような行動の積み重ねにより社会性が身に付き、校訓「文・武・心」の心の成長を表現できることにつながると信じています。

次に、先週までアメリカの国際大会で活躍し、帰国した生徒について紹介します。その生徒は、102HRの篠原彩緒さんです。彼女が参戦している競技はスケルトンといいます。氷のコースをいかに速く滑走できるかを競い合うスポーツです。氷上のコースをうつ伏せで、頭を前に滑走し、約1000メートルを約60秒足らずの時間で滑走し、駆け抜ける競技です。時速にして100キロから105キロくらいで滑走するそうです。

この競技に篠原さんは日本のナショナルチームのスタッフと参戦し、３月初めは韓国の平昌、先週は、アメリカ合衆国のレイクプラシッドで、ユースシリーズ第３戦から第５戦、第６戦に出場し、レイクプラシッドの第５戦で５位、第６戦で４位に入賞しました。韓国では、慣れない特殊な環境で精神的にも参ってしまって、落ち込むこともあったそうですが、そのような中でも、アメリカまで転戦する覚悟を決めたと聞いています。アメリカでの日本チームの生活は、アパートで共同生活しながら、篠原さん自身も料理を手伝ってリフレッシュしながら試合に臨んだと報告を受けました。

コーチによると、今後は、来シーズン開催される「ユースオリンピック」の出場を目指して、20か国20名の上位選手に与えられる出場権獲得に向けてさらにトレーニングを積んでいくことになるとのことです。彼女の活躍に称賛の拍手を送りたいと思います。

最後に、野球の世界一を決めるＷＢＣに出場しているダルビッシュ有選手は、負けたら終わりとなるトーナメントを前に、「結果はコントロールできないので、その過程や準備をしっかりするだけ」と、いつも通りの準備を強調するコメントをインタビューで答えています。皆さんも毎日の準備を確実に積み重ねて、自らの目標の実現を目指してほしいと思います。

４月には、松山北高校に期待して、皆さんの後輩が定員いっぱい入学してくれます。皆さんには、「さすが」と思われるような先輩であってほしいと期待しています。この学年末、学年始めの期間にしっかりと準備をしてください。４月に少し成長した元気な姿が見えることを期待して挨拶とします。